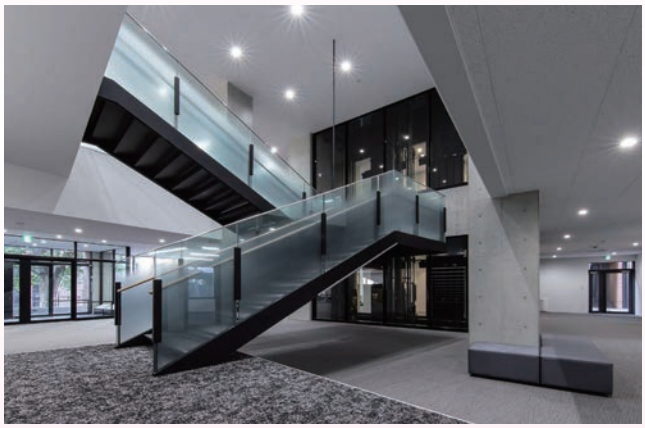
月報私学

2023
9
VOL.309



尚絅学園は明治21年創立の熊本県唯一の女子総合学園です。熊本市内に九品寺キャンパス、菊陽町に武蔵ヶ丘キャンパスがあり、令和３年１月、九品寺キャンパスに大学７号館を竣工しました。真新しい大学７号館のエントランス正面には等身大のくまモンがお出迎えしています（写真右上 ©2010熊本県くまモン）。

写真提供　学校法人尚絅学園　尚絅大学（熊本県熊本市）

CONTENTS

- 令和4年度　私学事業団の業務報告及び決算 …… 2
- 「女性研究者奨励金」～2019年度　受賞者の今～ …… 7
- 令和5(2023)年度　私立大学･短期大学等入学志願動向 …… 8
- 事業団資金で明日を拓く …… 10
- 被扶養者の再審査と加入者証等の検認を実施します …… 12
- 定時決定にかかる確認通知書を送付します …… 13
- 令和4年度　年金積立金の運用状況 …… 14
- 資産形成セミナー開催のご案内／共済定期保険にかかる学校加入コースのご案内／被扶養者にかかる後期高齢者の住所届／宿泊所･保養所の年末年始の宿泊予約 …… 16
- 令和5年度 ガーデンパレス共済業務課主催 各種説明会 …… 17
- INFORMATION …… 18
- 宿泊施設のご案内／融資事業のご案内 …… 20

日本私立学校振興･共済事業団

令和４年度 私学事業団の業務報告及び決算

財務部

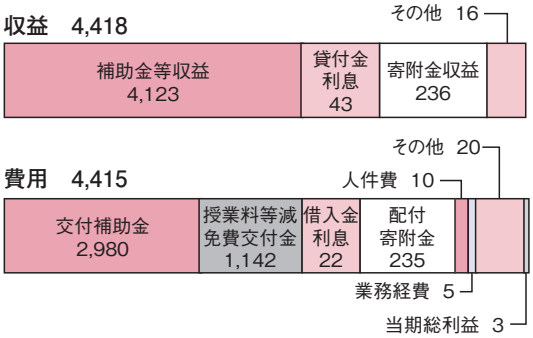
私学事業団の助成業務と共済業務における令和４年度の業務報告及び決算の状況は次のとおりです。なお、決算は文部科学大臣の承認を受けた後、官報に公告し、私学事業団ホームページ〔財務情報▼決算等の公告〕に掲載します。詳しい内容についてはホームページをご覧ください。

助成業務

助成業務では、補助事業、貸付事業、寄付金事業、学術研究振興基金・資金事業、経営支援・情報提供事業、減免資金交付事業、助成事業の七つの事業を行っています。

令和４年度の助成勘定における損益の状況は**図１**のとおりです。

図１　助成勘定の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

補助事業

◆636法人（855校）に2980億746万円を交付

国から私立大学等経常費補助金の交付を受け、これを財源として、大学等を設置している学校法人に補助金を交付しています。

表１　学校種別の補助金交付状況

区　分	学校総数	交付学校数	補助金総額	補助金の平均額	
				１校当たり	学生１人当たり
	校	校	百万円	百万円	千円
大　学	623	583	283,230	486	142
短期大学	297	270	14,551	54	150
高等専門学校	3	2	226	113	138
計	923	855	298,007	349	142

注）表1～3、6については、単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

４年度の補助事業計画額2981億7101万円に対し、2980億746万円を636法人、855校に交付しました（**表１**）。

※補助事業の詳細は、本誌４月号（２・３頁）を参照してください。

貸付事業

◆62法人に443億9450万円を貸し付け

学校法人等に対して、設置する私立学校の校地・校舎等の施設設備の整備に要する資金、その他経営に必要な資金の貸し付けを行っています。

４年度の貸付事業計画額570億円に対し、貸付実績額は443億9450万円でした（**表２**）。貸付金の財源は、国の財政融資資金221億円、厚生年金勘定からの借り入れ151億円、貸付回収金等71億9450万円となっています。

これにより、年度末の貸付金残高は5130億408万円となりました。

表２　貸付事業実績

区　分	貸付実績	
	件数	金額
	件	百万円
一般施設費	64	23,475
教育環境整備費	3	920
災害復旧費	2	3,000
公害対策費	0	0
特別施設費	2	17,000
合　計	71	44,395

寄付金事業

◆受配者指定寄付金の受入れと配付

私立学校の教育と研究の振興のために企業等から寄付金を受け入れ、これを寄付者が指定した学校法人に配付しています。

４年度の受入計画額220億円に対し、受入実績額は346億8551万円でした。これに前年度繰越金を加えた531億1098万円が学校法人に対する配付の財源となりました。配付実績額は234億7968万円となり、財源との差額296億3130万円を次年度に繰り越しました（**表３**）。これは、年度末に受け入れた寄付金の配付が翌年度以降となったこと等が要因です。

表３　受配者指定寄付金の受入・配付状況

区　分		実績額
		百万円
前年度繰越金 (A)		18,425
受入額	一般寄付	33,047
	現物寄付	1,639
	計 (B)	34,686
合　計	(A)＋(B)＝(C)	53,111
配付額	一般寄付	21,841
	現物寄付	1,639
	計 (D)	23,480
翌年度繰越金 (C)－(D)		29,631

◆若手・女性研究者奨励金

私立学校における次世代の人財育成を図るため、多様で特色ある研究に対して研究奨励金を交付しています。その財源は、企業等社会一般から幅広く募集する寄付金により賄っています。

4年度は交付計画額3000万円に対し、75研究に3000万円を交付しました（**表4**）。

表4　若手・女性研究者奨励金の交付状況

分　野	研究数	交付額
	件	千円
若手研究者奨励金	37	14,800
女性研究者奨励金	38	15,200
合　計	75	30,000

学術研究振興基金・資金事業

◆41研究に8070万円を交付

学術研究振興基金の運用益を学術研究振興資金として私立学校の学術研究のための設備の取得費、維持費等に対し交付しています。

昭和50年度創設の本基金の4年度末保有額は54億1564万円となっています。資金の4年度の交付計画額8000万円に対し、41研究に8070万円を交付しました（**表5**）。

表5　学術研究振興資金の交付状況

分　野	研究数	交付額
	件	千円
医　学	17	47,800
環境科学	0	0
理　学	5	5,200
工　学	4	8,900
農　学	3	6,000
文　学	3	3,500
法　学	0	0
経　済　学	5	3,700
家　政　学	1	2,000
体　育　学	1	2,800
教　育　学	2	800
合　計	41	80,700

経営支援・情報提供事業

◆私立学校の教育条件及び経営に関する調査・研究、指導・助言

学校法人の依頼に応じて、「経営改善計画の作成支援」、「学生募集」及び「人件費の見直し」等の経営上の諸課題について分析資料を提供したうえで、学校法人と本事業団職員が意見交換を行い、解決策を探る面談形式の経営相談を行いました。経営相談以外にも会計処理等の質問や財務分析等の簡易な要望に電話・メール等で対応しました。

4年度は、「自己診断チェックリスト」について、本誌及び本事業団ホームページに掲載することで周知を図りました。「経営判断指標」については、本事業団ホームページに掲載するとともに私学リーダーズセミナーにおいて説明を行い、経営判断指標に基づく経営状態の把握とその活用方法の周知に努めました。また、健全な学校法人運営のための参考資料として、大学・短期大学・高等専門学校法人に、「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」（経営判断指標の集計結果）を発送しました。

◆私立学校の教育条件及び経営に関する情報収集・提供

学校法人の教育条件及び経営に関する情報収集を行い、学校法人及び関係者に対し情報を提供しています。4年度は、全国の私立学校の財政状況を集計した「今日の私学財政」を発行しました。また、私立大学・短期大学及び私立高等学校の「入学志願動向」、私立大学・短期大学の教育情報を取りまとめた「私立大学・短期大学教育の現状」を本事業団ホームページで公表しました。

さらに、インターネットを利用した「私学情報提供システム」による財務帳票等の提供や、講演などを通した情報提供等も行いました。

◆各種セミナーの実施

大学・短期大学法人の新任理事を対象に、学校法人の理事に必要な知識を修得することを目的とした「私学リーダーズセミナー」を、東京ガーデンパレス及び大阪ガーデンパレスの2会場で開催しました。

大学・短期大学の若手職員を対象に、学校法人の経営や高等教育政策について理解を深め、大学職員としての資質向上を図ることを目的とした「私学スタッフセミナー」については、仙台ガーデンパレス及び大阪ガーデンパレスの2会場で開催しました。

◆大学ポートレート

国公私立大学等の教育情報を公表・活用するための共通的なしくみである「大学ポートレート（私学版）」を運用管理し、周知を図るための広報活動も行いました。

減免資金交付事業

◆640法人（875校）に1141億9258万円を交付

社会で自立し活躍することができる人材を育成するための質の高い教育を実施する大学等における修学の支援を行うため、国から授業料等減免資金の交付を受け、これを財源として大学等を設置している学校法人に交付金を交付しています。

4年度の交付計画額2071億8409万円に対し、1141億9258万円を640法人、875校に交付しました（**表6**）。

表6　授業料等減免費交付金交付状況

区　分	学校総数	交付学校数	交付額
	校	校	百万円
大　学	606	591	107,133
短期大学	297	282	7,031
高等専門学校	3	2	28
計	906	875	114,193

※大学院大学は交付対象外のため、学校総数から除外しています。

助成事業

◆私学研修福祉会に1億円を助成

助成勘定の前年度利益金を財源として、私立学校教職員の資質の向上のため、一般財団法人私学研修福祉会が行う研修事業に助成金を交付し、また、私立学校教職員の福利厚生の充実を図るため、年金等給付事業（既年金者年金増額費及び年金等給付整理資源）を対象として、本事業団の厚生年金勘定へ繰り入れを行っています。

4年度の計画額は、助成金1億円、厚生年金勘定への繰り入れ5763万円であり、これに対して助成金の交付実績は同額、厚生年金勘定への繰り入れ実績は4769万円でした。

共済業務

共済業務では、短期（医療）給付事業、年金等給付事業及び福祉事業（保健・医療・宿泊・貯金・貸付けの各事業）の三つの事業を行っています。

加入者数・標準報酬平均月額・標準賞与平均年額

令和4年度末の加入者数は62万552人となり、**表7**のとおり、前年度より9050人増加しました。

掛金等の算定基礎となる標準報酬平均月額及び標準賞与平均年額は、それぞれ**表8**、**表9**のとおりです。

表7　加入者数

令和3年度末	令和4年度末	対前年度増減	
		人数	伸び率
611,502人	620,552人	9,050人	1.48%

表8　標準報酬平均月額

令和3年度末	令和4年度末	対前年度増減	
		金額	伸び率
376,603円	377,825円	1,222円	0.32%

表9　標準賞与平均年額

令和3年度末	令和4年度末	対前年度増減	
		金額	伸び率
1,280,920円	1,260,334円	△20,586円	△ 1.61%

※標準賞与平均年額とは、年度末時点の加入者にかかる当年度内に支給された標準賞与の総額を年度末時点の加入者数で除して得た数値です。

短期（医療）給付事業

◆介護分掛金率を引き下げました

加入者や被扶養者の病気やケガ・出産・死亡・休業・災害などにかかる給付の他、介護保険制度にかかる介護納付金や高齢者医療制度にかかる支援金などの納付を行っています。

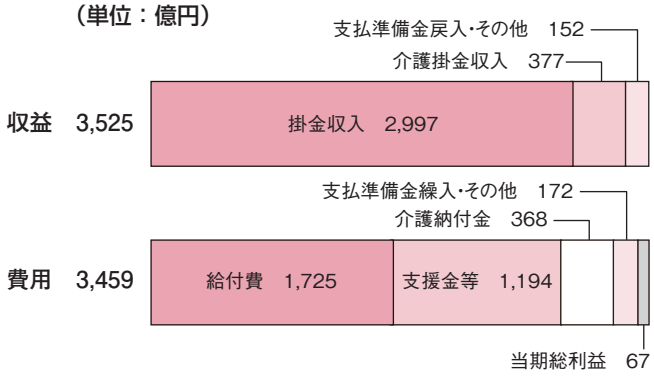
収益は、加入者の増加により掛金収入が35億円増加したことなどから、前年度より43億円（1・2％）増加し、3525億円になりました。

費用は、支援金等が78億円、介護納付金が11億円減少しましたが、給付費が94億円増加したことなどにより、前年度より13億円（0・4％）増加し、3459億円となりました。

損益は、前年度より30億円（80・6％）の増益となり、67億円の利益金を計上することになりました（**図2**）。

なお、介護分掛金率は、介護納付金の減少に伴い、4月から0・044ポイント引き下げ1・762％に変更しました。

図2　短期（医療）給付事業（短期勘定）の損益状況
（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

年金等給付事業

◆厚生年金勘定

厚生年金勘定では、厚生年金保険法に規定する加入者の老齢、障害又は死亡にかかる年金又は一時金の給付、経過的な共済年金の給付の他、基礎年金拠出金、厚生年金拠出金などの納付を行っています。

収益は、保険料収入は増加しましたが、運用収入の減少などから、前年度より98億円（0・86％）減少し、1兆1317億円になりました。

費用は、給付費や退職等年金給付勘定への繰入が増加しましたが、拠出金が減少したことにより、前年度より17億円（0・17％）減少し、9810億円になりました。

損益は、前年度より81億円（5・13％）の減益となりましたが、1506億円の利益金を計上することになりました。この利益金は将来の年金等給付のために積み立てることになります（**図3**）。

年度末の年金者数は58万4995人で前年度より4472人（0・77％）増加しました。

◆退職等年金給付勘定

退職等年金給付勘定では、加入者の退職、職務上の障害又は死亡にかかる年金又は一時金の給付などを行っています。

2年10月から、加入者及び学校法人

等の負担を軽減するため、厚生年金勘定職域年金経理から掛金率0・3％相当額を受け入れ、当該受入金を財源として掛金率の軽減を図り1・20％としています。

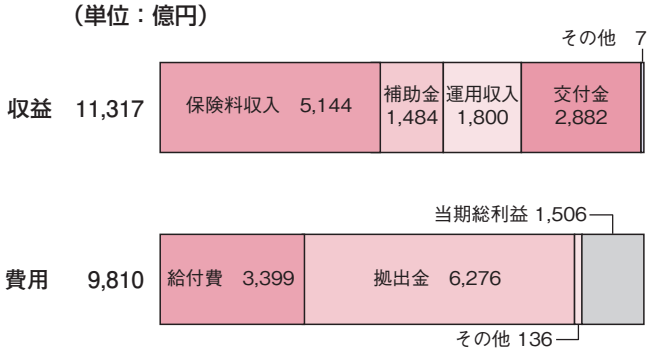
収益は、掛金、受入金及び運用収入などの増加により、前年度より7億円（1・5％）増加し、516億円になりました。

費用は、給付費の増加などから、前年度より4億円（19・1％）増加し、22億円になりました。

損益は、前年度より4億円（0・8％）の増益となり、494億円の利益金を計上することになりました。この利益金は将来の年金等給付のために積み立てることになります（**図4**）。

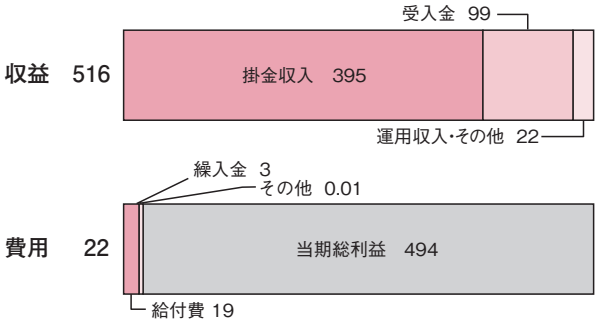
年度末の年金者数は6万5970人で前年度より1万1978人（22・18％）増加しました。

図3　年金等給付事業（厚生年金勘定）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

図4　年金等給付事業（退職等年金給付勘定）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

保健事業

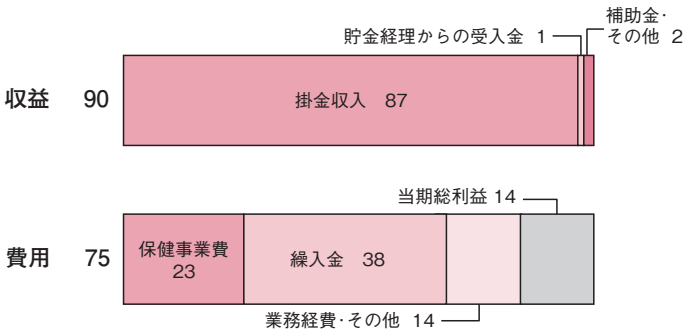
◆人間ドック利用費用補助や特定健康診査・特定保健指導等を実施

加入者や被扶養者の健康の保持増進を目的に、人間ドック利用費用補助、特定健康診査・特定保健指導、ヘルスケアポイント、契約施設の割引事業などの保健事業を行っています。

4年度の保健事業費は23億円でした。そのうち人間ドック利用費用補助が約55％、特定健康診査等の給付費が17％を占めています。

また、医療経理へ11億円、宿泊経理へ27億円、計38億円を繰り入れました（**図5**）。

図5　保健事業（保健経理）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

※福祉事業分の掛金収入は保健経理で受け入れ、医療経理・宿泊経理へ資金の繰り入れを行っています。

医療事業

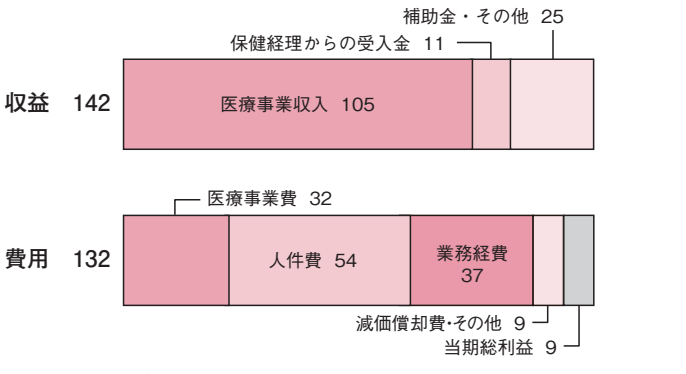
◆直営医療施設を運営

東京臨海病院を運営しています。

収益は、新型コロナウイルス関連補助金等の減少により、前年度より4億円（2・9％）減少し、142億円になりました。

費用は、人件費が減少したものの、材料費や光熱給水費の高騰などにより医療事業費や業務経費が増加したことから前年度より5億円（3・6％）増加し、132億円になりました（**図6**）。

図6　医療事業（医療経理）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

宿泊事業

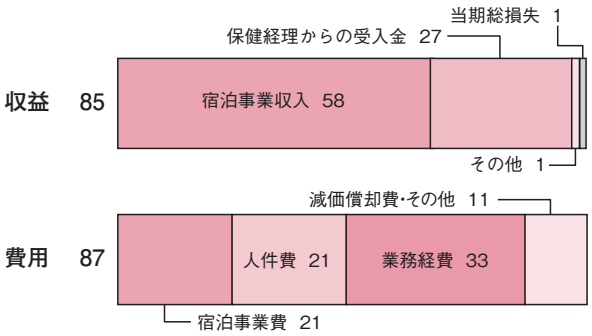
◆直営宿泊施設を運営

ガーデンパレスや宿泊所・保養所を全国16か所で運営しています。

収益は、宿泊事業収入の増加により、前年度より21億円（31・7％）増加し、85億円になりました。

費用は、人件費が減少したものの、材料費や光熱給水費の高騰などにより宿泊事業費や業務経費が増加したことから、前年度より９億円（11・6％）増加し、87億円になりました（**図7**）。

図７　宿泊事業（宿泊経理）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

貯金事業

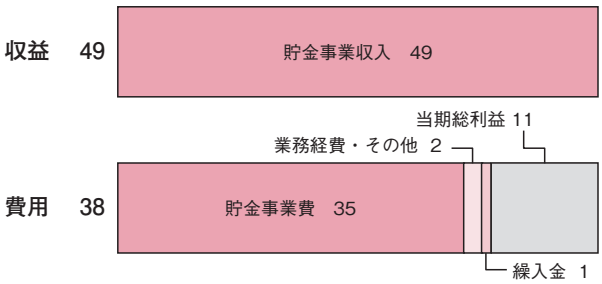
◆積立貯金残高は１兆２７９７億円

積立貯金、積立共済年金及び共済定期保険の事業を行っています。

収益は、金利低下により信託収益が減少したことなどから、前年度より３億円（６・１％）減少し、49億円になりました。費用は、利率変更により支払利息が減少したことなどから、前年度より６億円（13・０％）減少し、38億円になりました（**図8**）。

なお、積立貯金の年度末の加入者数は19万１０７５人、貯金残高は１兆２７９７億円となっています。また、積立共済年金の加入者数は３万４２８５人、共済定期保険の加入者数は６万３３９１人となりました。

図８　貯金事業（貯金経理）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

貸付事業

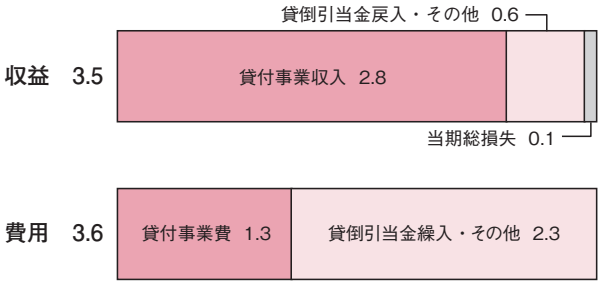
◆貸付残高は２０７億円

加入者が臨時に資金を必要とするときにその資金を貸し付ける事業を行っています。

収益は、貸付金残高の減少により利息収入が減少したことなどから、前年度より２０００万円（５・４％）減少し、３億５０００万円になりました。

費用は、貸付事業費の減少などにより前年度より６０００万円（14・０％）減少し、３億６０００万円になりました（**図9**）。

図９　貸付事業（貸付経理）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

その他事務費等

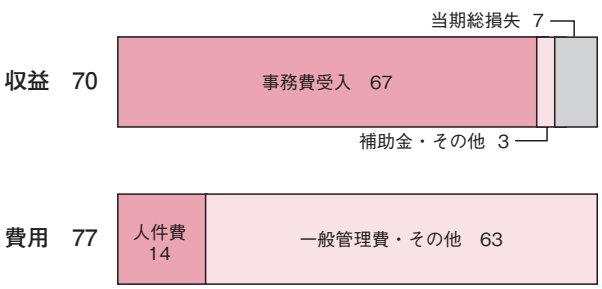
◆国庫補助金は２億７８５３万円

短期（医療）給付事業と年金等給付事業の事務に要する費用を賄っています。

収益は70億円となり、そのうち国庫補助金として２億７８５３万円が補助されました。

短期給付や年金等給付の決定、加入者の資格取得、標準報酬月額の改定、掛金等額の調定などの事務に要する費用は77億円になりました（**図10**）。

図10　その他事務費等（共済業務勘定）の損益状況（単位：億円）



注）単位未満の端数を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

助成業務

「女性研究者奨励金」～2019年度 受賞者の今～

私学事業団では、私立大学の教育・研究の未来を担う人財の育成を目的とした「若手・女性研究者奨励金」を交付しています。本号では、2019年度「**ユニークな免疫応答調節に関わる糖鎖構造とアジュバントの探索**」で「女性研究者奨励金」を受賞した、**順天堂大学医学部特任助教の伝田香里先生**の現在を紹介します。

伝田 香里先生……東京大学薬学部出身。「糖鎖・免疫・がん」をキーワードに、研究を継続している。順天堂大学では、基礎研究医養成プログラムにて医学部生の基礎研究の推進も行う。小5女子の母としても奮闘中！

――奨励金はどのように役立ちましたか。

2019年度「女性研究者奨励金」をいただいた当時は、ご支援いただいたテーマで公的研究費への応募を試みるものの獲得できないという状況が数年間にわたり続いていた時でした。もうこの研究を行うことは叶わないのではないかと、ほとんど心が折れかかっていたところでご支援を賜り研究を継続することができたという、本当にありがたい状況でした。研究に必要なマウスの維持や、試薬の購入などの予算面で大変役立ったのはもちろんですが、それ以上に、まだ研究を継続してもよいと背中を押していただけたようで、精神面で非常に心強い支えとなりました。

――本奨励金の受賞をきっかけに、研究環境等に変化はありましたか。

奨励金の受賞をきっかけとして、新たに科研費や学内予算を獲得することができました。私にとっては、現在も大きな環境の変化なく研究を継続できていること自体がありがたい状況です。このように細々とでも研究を継続できるきっかけとして、本奨励金の受賞は、非常に大きな意味があったと感じており、心より感謝しております。

――研究者として成長（ステップアップ）できたことを教えてください。

本奨励金のおかげで、諦めずに挑戦し続けることで道は開けると信じて研究を行えました。目に見える成長はできていないかもしれませんが、研究者として精神的に強くなれたと感じます。大学では、基礎研究医養成プログラムのチューターとして、医学部生の基礎研究推進に関わっているため、自分自身が研究を継続できていることで、自信を持って研究の楽しさを学生に伝え、研究開始や日々のサポートをすることができています。

――奨励金で実施した研究経験が現在の研究につながっている点や、別の研究費補助獲得の基礎となった等の事例があれば教えてください。

本奨励金の受賞をきっかけとして、2020年度から科研費・基盤研究（C）を獲得することができました。研究開始当初に新型コロナウイルスの蔓延により出鼻をくじかれたため、研究期間を延長し、現在も研究継続中です。ご支援をいただいた研究成果も含め、論文として報告する予定です。また、関連のテーマである樹状細胞に発現するC型レクチンに関する論文発表を行い、2023年度から新たな科研費・基盤研究（C）や学内予算を獲得することができました。

――研究者としての今後の抱負をお聞かせください。

本奨励金をきっかけに、科研費などの研究費を獲得することができ、研究を継続できていることに感謝しています。引き続き「糖鎖・免疫・がん」をキーワードに、ユニークな研究を展開していきたいと考えています。また、十分な成果を上げ、安定的に研究費を獲得し、研究を継続させるだけでなく、研究者のキャリアとしてもステップアップして、研究をさらに発展させられるようになりたいと思います。

――本奨励金について、後に続く研究者に伝えたいことはありますか。

「女性研究者奨励金」は、研究分野も、年齢も制限なく助成していただける、非常にありがたい奨励金です。2019年5月の「若手・女性研究者奨励金贈呈式」では、受賞者が集い、それぞれの世界で頑張っている方々とお話をできる機会があったことも、大変励みになりました。いろいろと大変な状況にある方もいらっしゃるかもしれませんが、ぜひ諦めずに共に頑張っていきましょう。

――ご支援いただいた寄付者の皆様へのメッセージをお願いします（社会からの支援と、ご自身が行った社会への還元などを含む）。

改めまして2019年度「女性研究者奨励金」のご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。研究成果を創薬に役立て、社会に還元できるよう、引き続き精進してまいりたいと思います。

最近は、科学にも興味がありそうな娘の将来を思い、女性研究者が活躍できる未来について考える機会が増えました。科学研究に夢を持って育つ若い世代が、いきいきと活躍できる世の中であることを願うとともに、ライフイベントの影響を受けやすい女性が、それぞれの状況に合わせ、年齢によらず輝ける社会であることも強く望みます。このためには、ぜひ一人でも多くの女性研究者が活躍できるよう、今後もこの素晴らしい奨励金によるご支援を継続していただければありがたく思います。

問い合わせ先（私学振興事業本部）
助成部　寄付金課
☎03(3230)7319・7320
Eメール　kifukin@shigaku.go.jp

助成業務

令和5(2023)年度 私立大学・短期大学等入学志願動向

私学経営情報センター　私学情報室

◆はじめに

私学事業団では、「令和5年度学校法人基礎調査」のデータを基に、私立大学及び短期大学の入学志願動向を集計し、『令和5（2023）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』にまとめました。本調査にご協力いただいた学校法人の皆様に厚く御礼を申し上げます。報告書は、8月下旬に各学校法人に送付しています。

ここでは、4年度と5年度の入学定員・志願者数・入学定員充足率などの概況、学校所在地の地域別の動向、最近10年の入学定員充足状況について説明します。なお、本集計では、通信教育と学生募集を停止した学校・学部・学科・研究科は除いています。

詳しくは、私学事業団ホームページ〔助成業務のご案内▼経営支援・情報提供▼私立大学・短期大学等入学志願動向〕をご覧ください。

◆大学の概況（表1）

5年度の集計学校数は600校で、前年度より2校増加しました。入学定員は4696人増加しましたが、志願者数は10万8659人、受験者数は9万5687人、減少しました。また、入学者数は1595人の減少となりました。

入学定員充足率は1・26ポイント下降し、99・59％となりました。

表1　大学の概況

区　分	4年度	5年度	増　減
集計学校数(校)	598	600	2
入学定員(人)	497,939	502,635	4,696 (0.9%)
志願者数(人)	3,822,486	3,713,827	△108,659 (△2.8%)
受験者数(人)	3,642,995	3,547,308	△95,687 (△2.6%)
合格者数(人)	1,508,761	1,494,758	△14,003 (△0.9%)
入学者数(人)	502,194	500,599	△1,595 (△0.3%)
志願倍率(倍)	7.68	7.39	△0.29ポイント
合　格　率(%)	41.42	42.14	0.72ポイント
歩　留　率(%)	33.29	33.49	0.20ポイント
入学定員充足率(%)	100.85	99.59	△1.26ポイント

※志願倍率（志願者数÷入学定員）、合格率（合格者数÷受験者数）
歩留率（入学者数÷合格者数）、入学定員充足率（入学者数÷入学定員）

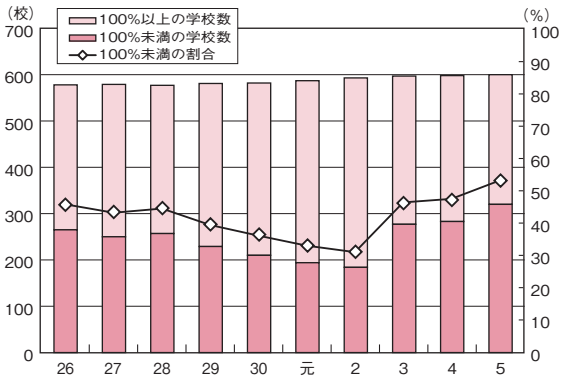
○地域別の動向（表2）

三大都市圏の入学定員充足率は、前年度より0・71ポイント下降して101・37％、その他の地域では3・19ポイント下降して93・54％となり、前年度に引き続き、三大都市圏の充足率がその他の地域の充足率を上回りました。

○入学定員充足状況（図1）

直近10年の状況を見ると、平成26年度の入学定員充足率100％未満の学校は265校で、全体の45・8％でした。その後、100％未満の学校数は平成28年度からの定員管理の厳格化等により、減少が続いていましたが、令和3年度から増加傾向となり、5年度は前年度より37校増加し、320校となりました。また、全体に占める割合も6・0ポイント上昇し、53・3％となりました。

図1　直近10年の入学定員充足状況（大学）



年　度	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
100%以上の学校数	313	329	320	352	372	393	409	320	315	280
100%未満の学校数	265	250	257	229	210	194	184	277	283	320
100%未満の割合(%)	45.8	43.2	44.5	39.4	36.1	33.0	31.0	46.4	47.3	53.3
合　計	578	579	577	581	582	587	593	597	598	600

表2　地域別の動向（大学）

区　分	集計学校数		志願倍率		入学定員充足率	
	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度
北海道	校 24	校 23	倍 3.59	倍 3.22	% 102.19	% 98.54
東北（宮城を除く）	22	23	2.36	2.10	91.71	84.00
宮城	11	11	4.04	3.62	102.01	98.34
関東（埼玉、千葉、東京、神奈川を除く）	25	24	4.09	3.78	99.49	97.47
埼玉※	26	26	4.58	4.18	99.80	97.50
千葉※	25	26	12.14	11.18	97.46	95.48
東京※	117	118	9.03	8.82	103.48	103.46
神奈川※	25	27	5.96	5.53	100.33	98.85
甲信越	23	23	2.60	2.38	98.21	96.25
北陸	13	13	4.82	4.08	97.84	92.63
東海（愛知を除く）	21	21	4.31	3.41	92.99	89.24
愛知※	45	45	7.63	7.21	102.06	101.74
近畿（京都、大阪、兵庫を除く）	15	14	4.41	3.45	90.45	85.11
京都※	26	26	9.86	10.12	101.30	101.37
大阪※	53	53	10.79	10.14	102.97	101.38
兵庫※	28	28	6.04	5.89	96.89	93.97
中国（広島を除く）	21	21	2.87	2.76	87.37	81.51
広島	14	14	4.09	3.72	95.46	91.98
四国	9	9	2.71	2.31	89.83	84.43
九州（福岡を除く）	28	28	2.62	2.41	96.66	94.88
福岡	27	27	6.62	6.38	99.77	99.89
合　計	598	600	7.68	7.39	100.85	99.59
三大都市圏（※の地域）	345	349	8.75	8.47	102.08	101.37
その他の地域	253	251	4.08	3.69	96.73	93.54

助成業務

◆短期大学の概況（表3）

5年度の集計学校数は276校で、前年度より3校減少しました。入学定員は2040人、志願者数は7447人、受験者数は7029人減少しました。また、入学者数は4320人の減少となりました。

入学定員の減少幅よりも入学者数の減少幅が大きかったため、入学定員充足率は5・60ポイント下降し、71・99％となりました。

表3　短期大学の概況

区　分	4年度	5年度	増　減
集計学校数(校)	279	276	△ 3
入学定員(人)	50,857	48,817	△ 2,040 (△4.0%)
志願者数(人)	53,436	45,989	△ 7,447 (△13.9%)
受験者数(人)	51,779	44,750	△ 7,029 (△13.6%)
合格者数(人)	48,014	41,779	△ 6,235 (△13.0%)
入学者数(人)	39,461	35,141	△ 4,320 (△10.9%)
志願倍率(倍)	1.05	0.94	△0.11ポイント
合格率(%)	92.73	93.36	0.63ポイント
歩留率(%)	82.19	84.11	1.92ポイント
入学定員充足率(%)	77.59	71.99	△5.60ポイント

※志願倍率(志願者数÷入学定員)、合格率(合格者数÷受験者数)
歩留率(入学者数÷合格者数)、入学定員充足率(入学者数÷入学定員)

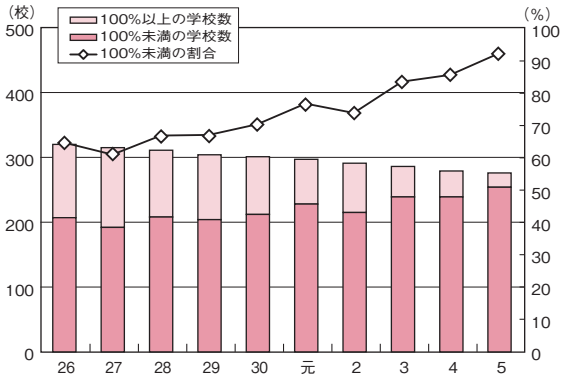
○地域別の動向（表4）

三大都市圏の入学定員充足率は、前年度より4・83ポイント下降して71・19％、その他の地域では6・32ポイント下降して72・67％となり、前年度に引き続き、その他の地域の充足率が、三大都市圏の充足率を上回りました。

○入学定員充足状況（図2）

直近10年の状況を見ると、平成26年度の入学定員充足率100％未満の学校は207校で、全体の64・7％でした。その後、100％未満の学校数は増減を繰り返し、5年度は前年度より15校増加し254校となりました。また、全体に占める割合は6・3ポイント上昇し、92・0％となりました。

図2　直近10年の入学定員充足状況（短期大学）



年　度	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
100%以上の学校数	113	123	103	100	89	69	76	47	40	22
100%未満の学校数	207	192	208	204	212	228	215	239	239	254
100%未満の割合(%)	64.7	61.0	66.9	67.1	70.4	76.8	73.9	83.6	85.7	92.0
合　計	320	315	311	304	301	297	291	286	279	276

表4　地域別の動向（短期大学）

区　分	集計学校数		志願倍率		入学定員充足率	
	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度
	校	校	倍	倍	%	%
北海道	13	12	0.98	0.86	71.31	64.61
東　北（宮城を除く）	17	17	0.85	0.81	75.28	71.89
宮　城	5	5	1.17	1.12	91.57	93.57
関東（埼玉、千葉、東京、神奈川を除く）	15	15	0.89	0.82	74.30	69.77
埼　玉※	11	11	0.86	0.78	79.71	73.99
千　葉※	8	8	0.96	0.90	87.23	83.40
東　京※	33	32	1.12	1.07	73.78	72.32
神奈川※	11	11	0.93	0.78	77.86	65.41
甲信越	15	15	0.95	0.82	82.49	73.32
北　陸	7	6	1.31	1.02	85.69	75.38
東　海（愛知を除く）	15	15	0.95	0.82	83.07	71.12
愛　知※	16	16	0.94	0.85	69.51	64.32
近畿（京都、大阪、兵庫を除く）	7	7	1.55	1.07	91.22	75.53
京　都※	9	9	1.21	1.16	78.31	71.14
大　阪※	20	20	1.14	1.05	79.50	76.09
兵　庫※	14	14	1.64	1.29	69.96	64.89
中　国（広島を除く）	13	13	0.96	0.90	75.20	71.78
広　島	4	4	0.97	0.88	82.66	73.80
四　国	11	11	0.81	0.77	67.37	63.14
九　州（福岡を除く）	18	18	0.97	0.97	79.47	76.26
福　岡	17	17	1.01	0.93	79.32	72.50
合　計	279	276	1.05	0.94	77.59	71.99
三大都市圏（※の地域）	122	121	1.11	0.99	76.02	71.19
その他の地域	157	155	1.00	0.90	78.99	72.67

◆大学院の概況（表5）

大学院の概況は、**表5**のとおりです。

表5　大学院の概況

区　分	修士課程及び博士前期課程専門職学位課程	うち法科大学院	うち専門職大学院（法科大学院を除く）	博士課程及び博士後期課程
集計学校数(校)	473	17	40	322
入学定員(人)	43,067	1,146	4,350	8,580
志願者数(人)	69,342	6,759	8,197	5,474
受験者数(人)	65,050	5,917	7,723	5,372
合格者数(人)	41,576	2,221	5,294	4,564
入学者数(人)	36,201	954	4,736	4,365
志願倍率(倍)	1.61	5.90	1.88	0.64
合格率(%)	63.91	37.54	68.55	84.96
歩留率(%)	87.07	42.95	89.46	95.64
入学定員充足率(%)	84.06	83.25	108.87	50.87

※志願倍率(志願者数÷入学定員)、合格率(合格者数÷受験者数)
歩留率(入学者数÷合格者数)、入学定員充足率(入学者数÷入学定員)

問い合わせ先（私学振興事業本部）
私学経営情報センター　私学情報室
☎03(3230)7852・7853
Eメール　portrait@shigaku.go.jp

助成業務

事業団資金で明日を拓く

～事業団融資をご利用いただいた学校紹介～

学校法人　尚絅学園
対象校　尚絅大学
所在地　熊本県熊本市
対象事業　校舎新築
（九品寺キャンパス大学7号館）

学校法人尚絅学園は、建学の精神を「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」として、現代文化学部、生活科学部、こども教育学部を持つ尚絅大学、総合生活学科、食物栄養学科、幼児教育学科を持つ短期大学部、高等学校、中学校、大学附属こども園を設置する、創立135年の伝統ある法人です。

今回は、大学の現代文化学部のキャンパス移転に際して新築された大学7号館についてお話を伺いました。

――新校舎の建設について、どのように企画・立案されたか教えてください。

尚絅大学には、熊本市中心部に近い九品寺と郊外の武蔵ヶ丘の二つのキャンパスがあります。7号館の新築は、現代文化学部の武蔵ヶ丘キャンパスから九品寺キャンパスへの移転を検討したことがきっかけです。

現代文化学部は、定員を充足できない状態が続いていた為、どうすれば学部の魅力を高めることが出来るか検討を続けていました。その中で、現代文化学部で学ぶ情報メディアや観光という領域は、郊外の立地よりも、新しいいろいろな情報を身近に感じることのできる市中心部に近い環境に身を置くことが、学生にとっても非常に有意義であろうと考え、九品寺キャンパスに移すことを検討しました。

また、現代文化学部移転と同時進行で、各方面から設置要望の多かった4年制のこども教育学部の新設を検討しており、武蔵ヶ丘キャンパスを幼児教育の拠点としたいと考えたことから、現代文化学部を九品寺キャンパスに移転し、移転後の校舎にこども教育学部を新設しようという計画になりました。

――新校舎のコンセプトや特に工夫された点を教えてください。

教育的な面でのキーワードは、「グローバルとICT」で、建物としてのコンセプトとして考えたのは、「学生がゆっくりと滞在出来る空間」です。

教育的なところでは、グローバルラウンジの設置と共に、無線LAN環境を完備し、全フロアをOAフロアとしたことです。電源も廊下を含めどこからでも取れるようにしました。グローバルラウンジは、留学生と在学生の交流の場とし、また、留学生も在学生も、留学元の大学や本学の授業を受けることのできるしくみにしたいと考えていました。そのため、グローバルラウンジには学生たちが使えるパソコンを常設し、大型モニター等を設置しました。

実はこれがコロナ禍になって思いがけない効果を生むこととなりました。留学したくても留学できない学生たちがパソコンやモニターを使って気軽にオンライン留学することができたのです。費用も安く、コロナの心配もせずにオンライン留学が体験でき、図らずも良い結果となりました。

オンライン留学も可能なグローバルラウンジ

また、ICTについてですが、本学では学生等にはノートパソコン又はタブレット端末を必ず所有するよう推奨しています。学生には従来の情報処理の概念だけではなく、もっと自由な発想で学んで欲しいと考えており、そのためにも、この建物の中では自由に端末を利用できるしくみにしています。IT機器をどの教室でどういう形で使うかは、今考えることと1年後に考えることは、おそらく違うと思っています。先々を想定し、とにかくフレキシブルに使えるように、という考えが基本となっています。

現在の大学生は、小学校の時からほぼ10年以上情報機器に接してきています。そのため、当初設計段階では、情報教室の設置も考えましたが、これからの時代には、固定的な情報教室よりも自由な情報空間が必要と考えました。

近年データサイエンスやAIといったものが話題になっていますが、これらをどこまで学んでいくべきか、現時点では方向性がはっきりとしていませんが、ある程度使いこなせる必要性が出てきている状況になっていることは間違いありません。この状況に対応するには、無線LANの環境とどこでも自由に電源が取れる空間が必要です。そのような空間にしておけば、時代の変化にある程度対応できると考えました。

建物に関してはゆっくり滞在できる空間の確保が課題となっていました。学生たちが授業の関係で時間が空いたときやたまたま休講になったときなどに、構内に滞在できる空間が限られていました。また、女子大というのも理由かもしれませんが、学生用の部室も

限られておりサークル活動も低調でした。このような課題に対し、九品寺（くほんじ）キャンパスにどういう建物を作るかについては、学生がゆっくりと滞在出来る空間を何とか作りたい、と考えました。

そこで、あらゆる場所に共用のラウンジ等を置きました。学生たちがお昼ご飯を食べたり、空き時間におしゃべりをしたりすることのできる空間をイメージしました。

サークル活動についても、建物のメインである1階の面積の半分ほどを使い、サークルのための部屋を設置しています。

――新校舎の建設に当たり、学生や教職員からの意見やアイディアはありましたか。

学生から改めて新しい建物に関する希望の声を募ったわけではありませんが、従来からある目安箱のキャンパスに関するさまざまな意見も参考にしました。

特に茶室は、授業でも茶道に取り組んでおり、茶道サークルもあることから、必要性を感じていました。また、グローバルラウンジでは留学生との交流が必要であり、茶道体験や和装体験を取り入れるために、和室を作ってほしいという要望がありました。余談ですが、担当した建設業者から「こんなに凝ったつくりは初めてです」と言われたほど専門的な茶室になりました。

各フロアには、学生がゆっくりできるようないろいろなスペースにソファやテーブルセットを設置しています。特に2階の学生ホールは、ゆっくりと滞在できる空間で、そこにはさまざまな家具を設置しています。本学にはインテリア専任の教員がおり「学生がゆっくり寛げる空間にしたいのですが、どうしたらいいですか」と相談したところ、数種類の家具を組み合わせて置くことになりました。ここは学生から非常に人気が高い場所となりました。

また、各フロアのトイレとパウダールームは基本的に独立して設置しています。パウダールームはゆっくり座れるように椅子を用意し、照明についても当初の暖色系から学生の意見が多かった寒色系に変更しました。

茶道体験も可能なこだわった茶室

――学内施設等が新しくなり、学生や教職員からの反応はいかがですか。

非常に心地よく快適な空間のため、学生の滞在時間が格段に増えているように感じます。また、大学の教職員だけでなく、中高の教職員からも「この建物が出来てよかった」との声が出るほど好評です。

グローバルラウンジは大学のためだけに作ったわけではありません。本学では中高大での連携を実施しており、中高でグローバル化が進んでいる現状、一緒に使うことも想定しました。また、学生等が留学する際に、相手の学校、国を含めて、詳しい知識を得られる場所が必要だろうと考えました。実際、中高生の利用は思った以上に活発で、中高大連携についても、今まで以上に強化されています。先生、生徒たちから、嬉しいという声が届いています。

グローバルラウンジでは中高大連携して中国語や韓国語の講座を開いています。もちろん大学生も出席していますが、中高生も多く参加しています。「とても楽しい」という意見をよく聞きます。早い段階から足を踏み入れてくれるので、学内進学もスムーズに考えてもらえているようです。

――今後の目標やビジョン、課題に感じていることがあればお聞かせください。

法人としては、施設設備面の拡充は一段落したと捉えています。今後は既存の施設、設備をしっかりとメンテナンスしていくというところと、どれだけ活用できるか、どれだけ磨き上げていくのかが課題だと考えています。ソフトの部分を磨きあげていけば、建物もさらに生きてくると思っています。

学生のニーズというのが、刻々と変わっている時代でもあるので、今、どれだけその変化に対応した質の高い教育を、施設、設備においても提供できるか考えているところです。

――事業団の融資をご利用いただきましたが、理由をお聞かせください。

元々事業団融資は知っていましたが、長期かつ低金利で融資を組めることから利用しました。また、手続きも非常に簡潔で、事業団融資課の担当者の方にこまめに対応していただいたので、安心して利用することが出来ました。

【取材　企画室】

開放感のあるラーニングコモンズ

被扶養者の再審査と加入者証等の検認を実施します

業務部　資格課

私学事業団では、加入者との生計維持関係を確認するため、被扶養者の再審査と加入者証等の検認を行っています。

令和5年度は、西日本ブロックの学校法人等を対象に、被扶養者の再審査と加入者証等の検認を実施します。東日本ブロックの学校法人等は、加入者証等の検認のみ実施します。

西日本ブロック
県コード16（富山）～47（沖縄）

再審査と検認を実施します

◆実施日程

通知文・回答書等の発送
9月13日（水）～15日（金）

回答書・結果報告書の提出締め切り
11月8日（水）必着

再審査結果通知の発送
6年2月7日（水）

◆再審査の対象となる被扶養者

4年12月31日以前に認定されている被扶養者（5年12月1日までに75歳を迎える被扶養者及び75歳を迎える加入者の被扶養者を除きます）のうち、次の①②のいずれか（又は両方）に該当する被扶養者

①平成17年4月1日以前生まれの被扶養者

②同居が認定の要件になっている被扶養者

表　被扶養者の収入要件・同居要件

	対象となる被扶養者	認定要件	確認書類
収入要件	・60歳未満の人	◎年収130万円未満 （月額108,334円未満）	所得証明書 収入見込証明書等
収入要件	・60歳未満で障害を事由とした年金を受給している人 ・60歳以上の人	◎年収180万円未満 （月額15万円未満）	所得証明書 年金改定通知書等
同居要件	・３親等の血族 （ひ孫、おじ・おば、甥・姪等） ・姻族 （配偶者の父母や兄弟、子の配偶者等）	◎同居 →別居した時点で被扶養者を取り消し	住民票等

◆再審査で確認する内容

収入及び同居の要件等に該当していることを確認します（**表**参照）。

その他、次の場合は被扶養者の取り消しが必要となるため、併せて確認してください。

- **就職して社会保険に加入した**
- 結婚、離婚、離縁など親族関係が変更になった
- 加入者より優先される扶養義務者が社会保険に加入した、加入者の収入を上回った
- **国内居住要件を満たさなくなった**

◆再審査回答書の提出方法

学校法人等から再審査回答書を加入者に配付してください。加入者が対象となる被扶養者の現況を確認して回答書に記入したものを学校法人等が取りまとめ、回答書の回収結果を結果報告書に記入し、回答書とともに期限日までに本事業団へ提出してください。

なお、回答書を提出する際に、**表**に記載した確認書類を添付する必要はありませんが、本事業団が必要と認めた場合は、**確認書類を追加で提出していただくことがありますので**、要件の確認は確実にお願いします。

回答書の提出がない場合は、被扶養者の認定を継続することができないため、**本事業団において被扶養者の認定を取り消します。**

回答書の回収漏れや提出忘れのないよう注意してください。

◆被扶養者の要件を欠いたとき

被扶養者としての要件を欠いていることが分かったときは、**回答書にその旨を記入するとともに、必ず「被扶養者取消申請書**DL**」も提出してください。**

◆加入者証等の検認

加入者及び再審査の対象とならない被扶養者は、加入者証等の検認を行ってください。本事業団から送付する再審査・検認該当者一覧の記載内容を学校法人等が確認するか、送付する検認表を加入者に配付し、内容を確認したのち、再審査の結果と併せて結果報告書に記載し、本事業団に提出してください。なお、検認表は提出不要です。

記載内容に訂正等がある場合は、所定の報告書等により手続きが必要です。

私学共済ホームページ〔よくある質問（Q＆A）▼被扶養者再審査にかかるQ＆A〕を参考にしてください。

東日本ブロック
県コード01（北海道）～15（新潟）

検認を実施します

◆実施日程

通知文・検認表等の発送
9月19日（火）～21日（木）

結果報告書の提出締め切り
11月8日（水）必着

検認方法は、前記の西日本ブロック「加入者証等の検認」と同様です。

DLマークが付いている用紙は、私学共済ホームページ〔様式用紙等ダウンロード〕からダウンロードできます。

定時決定にかかる確認通知書を送付します

令和5年9月7日～11日発送

業務部　資格課

「標準報酬基礎届書DL」（以下「基礎届書」といいます。また、電子媒体による報告も含みます）により決定した定時決定にかかる標準報酬月額について、「確認通知書（2）」を送付します。

学校法人等用と加入者用の2種類ありますので、加入者用は、必ず加入者に配付してください。

◆「確認通知書（2）」の異動内容

○定時決定

・「基礎届書」の報告に基づき、4月、5月及び6月の報酬の平均額で標準報酬月額を決定

・ただし、4月、5月及び6月の3か月とも無給又は休職給が支払われている、もしくは支払基礎日数が17日未満（短時間労働加入者は11日未満）であった加入者については、現在確認されている標準報酬月額と同額で決定

○定時決定（年平均額）

・「基礎届書」、「保険者決定（年間報酬額の平均額により算定）の申立書DL」及び「標準報酬基礎届・保険者決定申立に係る例年の状況、標準報酬月額の比較及び加入者の同意書DL」に基づき、年平均額で標準報酬月額を決定

○定時決定不要者

・5年6月1日から8月31日までに資格取得（所属学校変更は除きます）した加入者は、資格取得時の報酬額で標準報酬月額を決定

・5年7月又は8月に標準報酬月額を改定した加入者は、改定後の報酬月額で標準報酬月額を決定

○定時決定（保険者決定）

・「基礎届書」が未提出又は記入漏れなどにより、やむを得ず私学事業団が現に確認している直近の標準報酬月額で決定

◆決定した標準報酬月額の訂正

送付された「確認通知書（2）」の内容に誤りがある場合は「報酬月額訂正申出書DL」を、保険者決定の場合は「基礎届書」を至急提出してください。

◆決定した標準報酬月額の有効期間

今回決定した標準報酬月額は、大幅な報酬の増減がない限り5年9月から6年8月まで適用し、毎月の掛金等や給付金等の算定基礎となります。

◆後期高齢者医療制度に該当する人

75歳以上（70歳以上で障害認定された人も含みます）の後期高齢者医療制度に該当する人は、「確認通知書（2）」に年金等給付の支給停止額の計算基礎となる等級と標準報酬月額を表示していますが、掛金の徴収はありません。

異動内容が「定時決定（保険者決定）」となっている場合は、「基礎届書」を至急提出してください。

◆「資格喪失報告書DL」の提出

すでに退職している加入者の氏名が「確認通知書（2）」に記載されている場合は、「資格喪失報告書DL」を提出しているか確認し、未提出であれば至急提出してください。なお、退職日等が1年以上遡る場合は、業務部資格課までお問い合わせください。

◆学校法人等用の異動内容欄に「＊＊＊」印のある人

「基礎届書」で届け出た報酬（平均額）が、現に確認されている標準報酬月額に比べて2等級以上の差がある加入者については、学校法人等用の異動内容欄に「＊＊＊」印が表示されます。

この表示のある人が**次の①②に該当する場合は、「標準報酬月額改定届書DL」を至急提出してください。**

注「＊＊＊」印があっても、非固定的給与（残業手当、宿日直手当等）の増減による変動だけで、固定的給与（基本給、扶養手当、通勤手当等）が変動しないときは、「標準報酬月額改定届書DL」の提出は不要です（詳細は「事務の手引 令和5年版」78頁及び本誌6月号11頁参照）。

①昇給等による固定的給与の変動

〔事例〕4月に昇給して固定的給与が変動し、4月、5月及び6月の報酬の平均額が、現に確認されている標準報酬月額に比べ2等級以上増額になった場合

〔届け出方法〕算定基礎月を4月、5月及び6月とし、7月改定として届け出てください。

なお、基本給が変動せず、扶養手当や通勤手当だけが変動した場合も、固定的給与の変動にあたります。

②遡ってベース改定（差額支給）を実施

〔事例〕4月に遡ったベース改定を5月に実施し差額を支給した場合で、改定後の額で5月からの3か月を平均したときに、現に確認されている標準報酬月額に比べ2等級以上増額になった場合

〔届け出方法〕差額支給した月（新ベースで報酬を支給した月）が変動月（算定基礎月の初月）となります。算定基礎月を5月、6月及び7月とし、それぞれ改定後の報酬額を記入して届け出てください。8月改定となります。

◆7月以降に、ベース改定（差額支給）を実施したとき

変動月が7月以降になるときには、「基礎届書」の訂正は必要ありません。変動月から3か月の報酬の平均額が**定時決定（ベース改定前の額で決定）で確認された標準報酬月額と比べて2等級以上の増減がある場合は「標準報酬月額改定届書DL」を提出してください。**

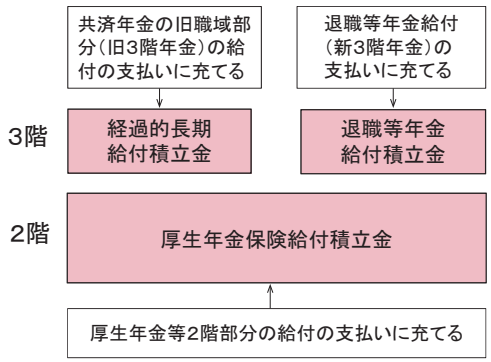
令和4年度　年金積立金の運用状況

資産運用部

年金積立金の区分

年金積立金は、図のとおり、厚生年金等2階部分の給付の支払いに充てるための厚生年金保険給付積立金、共済年金の旧職域部分相当給付（旧3階年金）の支払いに充てるための経過的長期給付積立金、退職等年金給付（新3階年金）の支払いに充てるための退職等年金給付積立金に区分し、それぞれの区分に応じて運用しています。

図　年金積立金のイメージ



管理運用の方法

年金積立金は、それぞれの積立金ごとに適切に管理運用を行うため、基本ポートフォリオを含む「管理運用の方針」を定めています。

◆管理運用の目的

加入者（被保険者）の利益のため、長期的な観点から、安全かつ効率的に管理運用を行うことを目的としています。

◆運用の目標

○厚生年金保険給付積立金

厚生年金の給付に必要な資金を確保しつつ、長期的に実質的な運用利回り（運用利回りから名目賃金上昇率を差し引いたもの）を最低限のリスクで確保することを目標としています。

○経過的長期給付積立金

旧職域年金の給付に必要な資金を確保しつつ、長期的に実質的な運用利回りを最低限のリスクで確保することに加え、厚生年金保険料や退職等年金給付掛金の軽減に寄与することを目標としています。

○退職等年金給付積立金

制度上設定される基準利率以上の運用利回りの確保を目標としています。

◆基本ポートフォリオによる投資

積立金ごとに運用の目標は異なることから、それぞれ長期的観点で最適な資産配分と考える「基本ポートフォリオ」を策定しています。

特に、厚生年金保険給付積立金と経過的長期給付積立金については、リスク・リターン等の特性が異なる複数の資産への分散投資を基本としています。

なお、基本ポートフォリオは適宜検証を行っており、必要に応じて見直すこととしています。

◆資産運用検討委員会

資産運用検討委員会は、私学関係者と資産運用関係の有識者で構成され、年金積立金の運用に関する管理運用の方針の策定及び変更、基本ポートフォリオの検証、管理運用状況の評価及び公表に関して意見を聞くために、定期的に開催しています。

市場環境

国内株式市場は、概ね米国株式に連動し、一定の変動幅の範囲内で推移しました。経済再開期待等から上昇する場面もありましたが、米国株式の下落や日銀による長期金利の許容変動幅の拡大が事実上の利上げとして嫌気され、通期では若干の上昇にとどまりました。

外国株式は、インフレの継続する中、金融引き締めに対する見方から上半期に株価は下落しました。下半期はインフレ指数の伸びが鈍化し、金融引き締め懸念が後退し株価は上昇しましたが、通期（ドルベース）では下落となりました。

国内金利は、12月に日銀が長期金利の許容変動幅を拡大したことから、一時0・50％を超える水準まで急上昇しました。その後は日銀が金融緩和政策を維持したことから長期金利は0・35％まで低下しました。

米国金利は、FRBの金融引き締め

主要指標（令和4年度の動向）

指　標		令和3年度末	令和4年9月末	令和4年度末	前年度末対比	傾向
株式	日経平均（円）	27,821.43	25,937.21	28,041.48	220.05	上昇
	NYダウ（ドル）	34,678.35	28,725.51	33,274.15	△1,404.20	低下
金利	日本国債10年（％）	0.22	0.24	0.35	0.13	上昇
	米国債10年（％）	2.34	3.83	3.47	1.13	上昇
為替	ドル／円（円）	121.70	144.74	132.86	11.16	円安
	ユーロ／円（円）	134.67	141.88	144.09	9.42	円安

表1　厚生年金保険給付積立金の運用状況

区　分	基本ポートフォリオ		簿　価（億円）	時　価（億円）	評価損益（億円）	時価構成割　合	乖離幅	運用利回り
	資産配分	許容乖離幅						
国内債券	25%	±10%	7,852	7,902	50	24.9%	△0.1%	△0.54%
国内株式	25%	±8%	6,213	8,020	1,807	25.2%	0.2%	4.73%
外国債券	25%	±6%	7,346	7,523	177	23.7%	△1.3%	1.70%
外国株式	25%	±7%	4,695	8,324	3,629	26.2%	1.2%	1.87%
合　計	100%	−	26,106	31,769	5,663	100.0%	−	1.99%

注）1. 国内債券には、貸付金と短期資産を含みます。また、四捨五入の関係で、合計と一致しない場合があります。
2. 運用利回りは、時価を反映した修正総合収益率です。

表2　経過的長期給付積立金の運用状況

区　分	基本ポートフォリオ		簿　価（億円）	時　価（億円）	評価損益（億円）	時価構成割　合	乖離幅	運用利回り
	資産配分	許容乖離幅						
国内債券	35%	±9%	14,279 (3,484)	14,285 (3,528)	7 (44)	66.8% (33.2%)	− (△1.8%)	△1.01% (△1.19%)
国内株式	25%	±8%	2,140 (2,140)	2,807 (2,807)	667 (667)	13.1% (26.4%)	− (1.4%)	4.11% (4.11%)
外国債券	15%	±4%	1,512 (1,512)	1,619 (1,619)	107 (107)	7.6% (15.2%)	− (0.2%)	3.59% (3.59%)
外国株式	25%	±8%	1,449 (1,449)	2,678 (2,678)	1,229 (1,229)	12.5% (25.2%)	− (0.2%)	1.85% (1.85%)
合　計	100%	−	19,381 (8,586)	21,390 (10,633)	2,010 (2,047)	100.0% (100.0%)	− −	0.36% (1.69%)

注）1. 国内債券には、短期資産等を含みます。また、四捨五入の関係で、合計と一致しない場合があります。
2. 運用利回りは、時価を反映した修正総合収益率です。
3. 上段は剰余部分を含む積立金全体を表し、（ ）については、基本ポートフォリオの対象である負債対応部分を表しています。

への見方から上下しましたが、FRBが金融引き締めの姿勢を維持したことから、4％を超える水準まで上昇しました。その後は景気後退懸念やインフレ率の鈍化傾向から金利は低下しましたが、通期では上昇しました。

為替（ドル、円）は、日米の金融政策の方向性の違いから円安が進展し、10月に一時150円を超える円安となりました。その後は、財務省による為替介入、米国長期金利の低下、日銀の長期金利許容変動幅拡大等から円安が修正されましたが、通期では大幅な円安となりました。

運用状況

◆厚生年金保険給付積立金

厚生年金保険給付積立金の年度末残高（時価）は、3兆1769億円となり、4年度の運用利回りは、プラス1・99％でした（**表1**）。

国内債券の運用利回りはマイナスでしたが、外国債券、国内株式、外国株式はプラスとなりました。

特に、年度後半の国内株式市場の上昇が全体にプラス寄与し、外国株式と外国債券については、主に円安によりプラス利回りとなりました。

◆経過的長期給付積立金

経過的長期給付積立金の年度末残高（時価）は、2兆1390億円となり、4年度の運用利回りは、プラス0・36％でした（**表2**）。

経過的長期給付積立金についても、厚生年金保険給付積立金と傾向はほぼ同じで、主として国内・国外株式が好調であったことがプラスの利回りに大きく寄与しました。

○積立金の負債対応部分と剰余部分

経過的長期給付積立金には、共済年金の旧職域部分の支払いに必要な額（負債対応部分）を超える額（剰余部分）が存在します。

この剰余部分は、基本ポートフォリオの対象とせず、その全額を安全資産で運用することとしています。

なお、この剰余部分を財源として厚生年金保険料や退職等年金給付掛金の軽減を実施しています。

◆退職等年金給付積立金

退職等年金給付積立金の年度末残高（簿価）は、3535億円となり、4年度の運用利回りは、0・68％でした（**表3**）。

退職等年金給付制度の基準利率は、4年10月から5年9月まで0・02％に設定しており、基準利率を上回る運用利回りが確保できています。

表3　退職等年金給付積立金の運用状況

区　分	基本ポートフォリオ		簿　価（億円）	簿価構成割　合	運用利回り
	資産配分	許容乖離幅			
国内債券	100%	△10%	3,499	99.0%	0.68%
国内株式	0%	+10%	0	0.0%	0.00%
短期資産	−	−	36	1.0%	0.00%
合　計	100%	−	3,535	100.0%	0.68%

注）1. 国内債券には、貸付金等を含みます。また、四捨五入の関係で、合計と一致しない場合があります。
2. 運用利回りは、実現収益率です。
3. 国内債券の許容乖離幅は、短期資産との合算で管理しています。

詳細は、私学共済ホームページ〔私学共済事業のご案内▼情報公開▼年金資産の運用〕をご覧ください。

資産形成セミナー開催のご案内

福祉部　貯金・貸付課

資産形成について、専門の担当者が学校法人等を直接訪問して、教職員に向けた説明会を開催します。

セミナーでは、資産形成の重要性や、資産形成におすすめの「積立共済年金」と最近話題の「ＮＩＳＡ」「ｉＤｅＣｏ」との違いなどを説明します。

◆開催期間
令和5年10月～11月

◆開催人数
10名以上

◆所要時間
60分程度

◆費用負担
無料
応募多数の場合はご希望に添えないこともあります。

◆申し込み先
私学事業団貯金・貸付課貯金係
☎０３（３８１３）５３２１
平日午前9時～午後5時15分まで

注　ＮＩＳＡ・ｉＤｅＣｏに関する照会は私学事業団ではお受けできません。

・ＮＩＳＡ
取り扱いのある金融機関等へお問い合わせください。

・ｉＤｅＣｏ
国民年金基金連合会
☎０５７０（０８６）１０５

積立共済年金とは

加入者が在職中に掛金を積み立て、その積立金と配当金を原資として、退職（脱退）後に年金などを受け取ることができる、公的年金を補完する制度です。

この原資は、本制度の委託先保険会社が運用を行うため、投資銘柄を個別に指定する必要がありません。

現在、当制度には3万人以上が加入しており、予定利率は1・25％で運営されています（将来、変動することがあります）。

加入申込期間（6年4月1日加入）
5年11月1日～30日【必着】

保障額
・10万円から300万円の10種類の中から選択できます。
・全員一律又は加入者別に保障額を設定することができます。

加入申込期間（6年4月1日加入）
5年11月1日～30日【必着】

注　詳細は、10月下旬に送付する後期募集パンフレットをご覧ください。

共済定期保険にかかる学校加入コースのご案内

福祉部　貯金・貸付課

学校法人等の福利厚生制度（弔慰金・死亡退職金等）におすすめです

学校加入コースは、学校法人等に所属する加入者が、病気や不慮の事故による死亡又は高度障害となった場合に備え、保障する制度です。

学校法人等が保険料を負担し、死亡保険金は加入者の遺族に、高度障害保険金は加入者本人に直接支払われます。

この保険料は、原則全額損金として処理できます。収支決算を1年ごとに行い、剰余金が生じた場合は、配当金を登録口座へ振り込みます（令和4年度配当率約41・82％）。

被扶養者にかかる後期高齢者の住所届

業務部　資格課

被扶養者が75歳の誕生日を迎えると私学共済の被扶養者ではなくなり、後期高齢者として、被扶養者本人が広域連合に保険料を納付することになります。

この保険料は、私学事業団から広域連合に被扶養者の住所情報等を提供することにより軽減されます。

原則として、加入者と同一の住所を提供しますので、被扶養者が75歳の誕生日を迎える時点で加入者と住所が異なる場合は、「後期高齢者医療制度住所届DL」を忘れずに提出してください。

宿泊所・保養所の年末年始の宿泊予約

施設部　管理課

宿泊所・保養所の12月31日及び1月中の宿泊は、10月1日（日）から予約受付を開始します。

申し込みの電話が集中するため、一時的につながりにくくなることがあります。あらかじめご了承ください。

注1　子ども料金の対象は、3歳以上小学生以下です。

注2　宿泊予約は、電話で各宿泊所・保養所に直接お申し込みください。

注3　金沢「兼六荘」の予約は、宿泊の1年前から受け付けを開始しています。

年末年始（12月31日～１月３日）の特別料金

宿泊所・保養所名	電話番号	料金（1泊2食）	
		大人	子ども
湯河原　敷島館	0465(63)3755	17,900円	10,400円
箱根　対岳荘	0460(82)2094	17,500円	10,200円
鎌倉　あじさい荘	0467(22)3506	14,500円	8,700円
葉山　相洋閣	046(875)7300	16,000円	9,500円
金沢　兼六荘	076(232)1239	17,800円（ツインA）	
志賀高原　やまゆり荘	0269(34)2102	9,700円	5,800円
軽井沢　すずかる荘	0267(45)7311	13,300円	7,800円
京都　白河院	075(761)0201	17,700円	10,500円

令和5年度 ガーデンパレス共済業務課主催 各種説明会

広報相談センター　相談班

ガーデンパレス（京都を除きます）共済業務課では、地域の加入者や事務担当者を対象に各種説明会を開催しています。

参加費は無料ですので、ぜひ参加してください。

なお、申込人数が少ない場合など、状況により中止することがあります。

加入者向け説明会

日々の生活に役立つ私学共済制度を学びましょう

◆内容

加入者の日々の生活を支える共済制度について説明します。

病気やケガをしたときの短期給付や老後の生活を支える年金等給付のしくみを始め、人間ドック利用費用補助や各種補助券の利用方法など加入者に役立つ情報をお知らせします。

新しく加入した人から共済制度を一から知りたい人まで、幅広く参加できます。

◆参加対象者

加入者及び事務担当者

◆開催日程・申し込み方法

各共済業務課発行のブロック広報誌又は私学共済ホームページ〔私学共済事業のご案内▼お知らせ一覧▼各種説明会▼ガーデンパレス共済業務課主催▼加入者向け説明会〕を参照していただくか、各共済業務課までお問い合わせください。

年金説明会

将来に備えて年金制度を学びましょう

◆内容

退職後の生活を支える年金制度について、基本的な内容を説明します。

年金のことがまったく分からない人でも安心して参加してください。

注　遺族厚生年金、障害厚生年金の説明はありませんので、申し込みの際は注意してください。

◆参加対象者

加入者及びその家族、事務担当者

◆開催日程・申し込み方法

各共済業務課発行のブロック広報誌又は私学共済ホームページ〔私学共済事業のご案内▼お知らせ一覧▼各種説明会▼ガーデンパレス共済業務課主催▼年金説明会〕を参照していただくか、各共済業務課までお問い合わせください。

地域事務担当者向け説明会

すぐに役立つ共済事務を学べます

◆内容

私学共済の事務にかかる基本的な内容や手続きについて、事例を挙げて説明します。

毎年必ず行う事務手続きや質問の多い事項など、テーマを絞った内容で2時間程度行います。

日々の共済事務への理解を深める機会にしてください。

◆参加対象者

事務担当者

◆開催日程・申し込み方法

説明会を開催する地区の学校法人等に開催案内を別途送付します。開催案内に同封の「地域事務担当者向け説明会参加申込書」に参加者を記入のうえ、各共済業務課まで郵送により申し込んでください。

学校訪問型説明会

学校法人等に講師を派遣します

◆内容

共済業務課職員が、学校に直接訪問して、私学共済制度の概要等を説明します。

学内の研修や教職員向けの説明会などに活用できます。

詳細は、各共済業務課までお問い合わせください。

ブロック名	担当都道府県	ガーデンパレス名	電話番号（直通）	ブロック広報誌
北海道	北海道	札幌ガーデンパレス共済業務課	011（222）6234	きらら
東北	青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島	仙台ガーデンパレス共済業務課	022（299）6231	ハーモニー
関東	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨	東京ガーデンパレス共済業務課	03（3812）2577	Promenade
中部	富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知・三重	名古屋ガーデンパレス共済業務課	052（957）1388	すこやか
近畿	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	大阪ガーデンパレス共済業務課	06（6393）9701	Present
中国四国	鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知	広島ガーデンパレス共済業務課	082（262）1134	SunSunニュース
九州沖縄	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄	福岡ガーデンパレス共済業務課	092（752）0651	そよ風

私学事業団ホームページ　https://www.shigaku.go.jp/
- 助成業務　https://www.shigaku.go.jp/s_home.htm
- 共済業務　https://www.pmac.shigaku.go.jp/（私学共済ホームページ）

共済業務

共済事業本部
〒113－8441　東京都文京区湯島1-7-5
☎03（3813）5321（代表）
電話照会の際は、学校記号番号、加入者番号が確認できるものをお手元にご用意ください。

積立貯金の後期募集が始まります　申込受付期間　９月26日(火)～10月25日(水)

積立貯金の新規申し込み、既加入者の積立金額変更及び中断している積立貯金の復活を希望する場合は、申出期間内に手続きしてください。なお、積立貯金のパンフレットは８月下旬に発送します。追加でパンフレットが必要な場合は貯金･貸付課貯金係まで連絡してください。

また、私学共済ホームページ〔私学共済事業のご案内▶福祉事業▶積立貯金▶積立貯金の各種手続き〕にも掲載しています。

●制度のあらまし
- **利率　年利0.15%**（半年複利。利率は、金融情勢の変動等により変更する場合があります）
- **積立金額単位**　1,000円単位
- **積み立て方法**　（②のみの積み立てはできません）
  ①定時積立金　毎月の給与から
  ②臨時積立金　年３回、夏期・冬期・春期の賞与等から
- **今回の申し込みによる積み立て開始時期**
  11月の給与から〔払込期限は12月８日(金)〕

●申し込み方法
- **新規加入**　「貯金加入申込書」
- **積立金額の変更**　「積立金変更申込書」
- **積立貯金の復活**　「積立中断・復活届書」

加入者から提出された書類を学校単位で一括して「貯金関係書類送付内訳書」を添付のうえ、申込受付期間内に提出してください。

提出締め切り日：10月25日(水)私学事業団必着

●送付先（積立貯金書類専用）
〒101-8709　日本郵便（株）神田郵便局私書箱第103号
私学事業団共済事業本部　貯金係

【福祉部　貯金・貸付課】

アイリスプランの募集

私学事業団では、教職員生涯福祉財団と提携して教職員の経済生活支援事業「アイリスプラン」を実施しています。

詳細は、９月上旬に学校法人等に送付する募集パンフレットをご覧ください。

●問い合わせ先
専用ダイヤル　0120（844）022

【福祉部　貯金・貸付課】

貸付けの申込締め切り日に注意してください

10月23日（月）送金分は９月29日（金）が申込締め切り日となります。締め切り日（毎月15日・月末）が土・日曜日又は休日のときは順次繰り上がりますので注意してください。

【福祉部　貯金・貸付課】

令和５年度 特定健康診査の健診結果データ提出期限(第１回)

令和５年度の定期健康診断を実施済みの学校法人等は、特定健康診査にかかる健診結果データを取りまとめ、**９月30日（土）**までに提出してください。

提出の際は、事務の効率化と記載不備防止のため、私学事業団のフォーマットによるデータ作成にご協力くださるようお願いします。

詳細は、６月下旬に送付した事務担当者用「特定健診元気ガイド」６～14頁をご覧ください。私学共済ホームページ〔私学共済事業のご案内▶刊行物▶事務担当者向けの刊行物〕にも掲載しています。　**【福祉部　保健課】**

9月の共済業務スケジュール

４日(月)	貸付　送金
６日(水)	貸付　８月分定期償還期限
８日(金)	貯金　払込期限（必着）
15日(金)	貸付　10月2日送金申し込み･任意償還申出締め切り
20日(水)	貯金　送金
22日(金)	貸付　送金
25日(月)	貯金　払戻・解約請求締め切り 積立共済年金　脱退申出等締め切り
26日(火)	貯金　後期加入申し込み開始
28日(木)	掛金等　８月調定分口座振替（自振校のみ） 貸付　９月分定期償還口座振替
29日(金)	貸付　10月23日送金申し込み締め切り
30日(土)	特健　特定健康診査の健診結果データ提出期限(第1回)

10月の共済業務スケジュール

２日(月)	掛金等　８月調定分納期限 貸付　送金
６日(金)	貸付　９月分定期償還期限
10日(火)	貯金　払込期限（必着）
13日(金)	貸付　11月2日送金申し込み･任意償還申出締め切り

INFORMATION

（「月報私学」はホームページにも掲載しています）

「月報私学」の回覧にご協力ください

「月報私学」は、学校法人等宛てに送付しています。

限られた部数の送付となりますので、本誌を広くご活用いただくためにも、法人等内での各部署への回覧にご協力くださるようお願いします。

また、私学事業団ホームページ〔広報誌・刊行物一覧▶月報私学〕にも掲載していますのでご活用ください。

助成業務

私学振興事業本部
〒102－8145
東京都千代田区富士見1-10-12
☎03（3230）1321（代表）

私立大学等経常費補助金の申請等については電子窓口をご確認ください

私立大学等経常費補助金の調査票及び事務連絡等を「電子窓口」に掲載していますので、定期的にご確認ください。

令和５年10月は、「令和５年度教員経費に係る調査票」、「令和５年度学生経費に係る調査票」、「令和５年度認証評価経費調査票」等について掲載する予定です。

【助成部　補助金課】
☎03（3230）7297～7314・7324
Ｅメール　hojokin@shigaku.go.jp

助成業務の貸付金にかかる償還のご案内（令和５年９月分）

助成業務の貸付金にかかる元金・利息の償還については、契約締結後に送付した「償還年次表」及び８月下旬に送付した「貸付金返済期日のご案内（払込通知書）」を参照のうえ、払込指定期日までに**私学事業団指定口座に入金**してください。

払込指定期日を過ぎますと、その翌日から支払日（本事業団の口座に入金された日）までの期間について、延滞金が発生しますのでご注意ください。

また、償還金の振り込みに当たっては、次の点に留意してください。

① 「貸付金返済期日のご案内（払込通知書）」の「振込依頼書」を使用し、**「電信扱い」**にしてください。

② インターネットバンキング等を利用する場合は、「振込依頼書」に記載の**法人番号と法人名を通信欄に入力**して、お振り込みください。

③ 償還金は、設置学校ごとに分割して振り込まず、必ず**「学校法人単位」**で一括してお振り込みください。

※私学事業団ホームページ〔助成業務のご案内▶融資▶貸付金にかかるご返済について（令和５年９月分）〕も併せてご覧ください。

【融資部　融資課】
☎03（3230）7871～7874
Ｅメール　yushi@shigaku.go.jp

私学事業団の刊行物案内『今日（こんにち）の私学財政』

◆『令和４年度版 大学・短期大学編』（CD-ROM）
令和４年12月刊行　3,500円（税込）

◆『令和４年度版 高等学校･中学校･小学校編』（CD-ROM）
令和５年１月刊行　2,300円（税込）

◆『令和４年度版 幼稚園・特別支援学校編』（冊子）
令和５年８月刊行　2,000円（税込）

◆『令和４年度版 専修学校・各種学校編』（冊子）
令和５年８月刊行　2,000円（税込）

NPO法人学校経理研究会を通じてご購入いただけます。ご購入を希望される方は、NPO法人学校経理研究会（☎03-3239-7903・Ｅメール gaku@keiriken.net）に直接お問い合わせください。

【私学経営情報センター　私学情報室】
☎03（3230）7846～7848
Ｅメール　center@shigaku.go.jp

宿泊施設のご案内

加入者のご予約は公式ホームページからの予約が断然お得です

HOTEL, BANQUET & RESTAURANT 広島カーテンパレス

〒732-0052　広島市東区光町1-15-21　☎082(262)1122(代表)
JR「広島」駅新幹線口(北口)から徒歩５分　https://www.hotelgp-hiroshima.com

１泊朝食（お弁当）付プラン

シングルルーム（１名１室／１名様）　8,300円～
ツインルーム　（２名１室／１名様）　8,000円～

取扱期間：通年(年末年始を除きます)

・朝食はお弁当スタイルです。客室やイートインスペースでお召し上がりください。
・宿泊予約のキャンセル・変更は三日前までに連絡してください。

スーペリアツインルーム

鎌　倉　あじさい荘（そう）

〒248-0021　神奈川県鎌倉市坂ノ下25-4　☎0467(22)3506
JR「鎌倉」駅から江ノ島電鉄「長谷」駅下車、徒歩８分

初秋の鎌倉は曼珠沙華（まんじゅしゃげ）や萩などが咲き、情緒にあふれています。
ゆっくりと鎌倉を散策してみてはいかがでしょうか。

あじさいプラン

和食懐石風のスタンダードな宿泊プランです。

１泊２食(２名１室／１名様)　9,500円～

取扱期間：通年(年末年始、夏期期間を除きます)

・１名１室でご利用の場合、1,500円の割り増しとなります。

夕食（イメージ）

融資事業のご案内

詳細は私学事業団ホームページをご覧ください
https://www.shigaku.go.jp/s_yushi_menu.htm

幼稚園・認定こども園に対する融資条件が一部優遇されます

待機児童問題の解消、安心して子どもを預けられる環境整備を後押しするため、令和５年度の私立幼稚園・認定こども園を対象とする私学事業団の融資について、融資条件が一部優遇されます。

☆ 融資率

園舎等の建築、土地購入　事業費の80%以内 → **95%以内**
園舎等の改修　事業費の75%以内 → **95%以内**

☆ 資産査定額

(直近決算の)純資産の部合計額 × 30%
→ (直近決算の)純資産の部合計額 × **40%**

※上記以外にも融資条件があります。詳しくはホームページをご覧になるか融資部融資課までお問い合わせください。
※所定の審査により、ご希望に添えない場合がございます。

■主な事業と融資金利（令和５年８月現在）

主な事業内容	返済期間（据置年数含む）			
	30年以内	20年以内	10年以内	6年以内
校（園）舎などの建築・用地取得	年％ 1.40	年％ 1.00	年％ 0.60	年％ 0.47
寄宿舎などの建築・用地取得	1.50	1.10	0.70	—
園バスや備品などの購入	—	—	0.60	(5.5年以内) 0.34

※返済期間が30年以内（21年以上）の融資は、原則として融資契約額が10億円以上の場合にご利用いただけます。
※金利は毎月見直しています。なお、金利は融資契約時点の金利が適用され、償還完了までの固定金利となります。

問い合わせ先(私学振興事業本部)
融資部融資課　☎03(3230)7862~7864、7866~7868
Eメール　yushi@shigaku.go.jp

月報私学　９月号(VOL.309)令和5年9月1日発行
編集・発行　日本私立学校振興・共済事業団　〒102-8145　東京都千代田区富士見1-10-12
☎03(3230)7810・7811(企画室)
(禁無断転載)
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。